

## 教育の質向上のための取り組み

2023 年度、西荻学園幼稚園では東京都の「私立幼稚園教育水準向上支援事業補助金」を用いて、教育の質向上のために以下の取り組みを行いました。

### 1. 年長クラスの活動として「かがくのじかん」を実施した。年間 12 回。

#### 実施実績

通常の子遊びや保育活動とは異なる「かがくじっけん」という時間を持った。専門の講師を迎え、「空気」、「バランス（重力）」、「くつつくもの」等のテーマを掲げ、子どもたちの関心を引く簡単な実験を行った。実験の前には、「考えてみよう」と促すことで見通しをたてる力、想像力を育て、実際に実験をすることで見通しと違う時は原因や改善点を考えることを重ねた。見通しが違ったり、知識が間違っていたとしても、改善や訂正を考えたり、互いに教え合い、意見を受け入れることで成功につながる共同と共生の経験も持つことができた。それらを通してコミュニケーション能力が深まり、「人間関係」、「言葉」、「表現」の成長が見られた。また、様々な興味を抱いて自分たち自身で調べるといった姿勢も多く見られるようになった今後の小学校での探求学習の基礎となる学びとしても活動を継続したい。



## 2. 年長クラスの活動として「造形のじかん」を実施した。年間6回。

### 実地実績

通常を持ち帰ることを考慮した制作活動と異なり、アートとして造形表現をする時間そのものが充実し、自己表現を楽しむことを目的とした「造形のじかん」を行った。専門講師を迎え年間6回行った。自然素材を用いた自由制作や大量の粘土を使った自由制作等を行い、「色」「形」「匂い」「感触」を刺激し、全身を使った自由表現から制作される自己表現としての作品作りを楽しんで参加できた。協力して大きな作品に取り組んだり、互いの作品を認め合い、互いの工夫を自分の作品に取り込むといったコミュニケーションを経験した。自己表現の楽しさから、自分の意見を表明することの自信を育て、時に生じる理解や意見の相違は「善悪」や「勝ち負け」とは異なることを経験した。それらを通してコミュニケーション能力が深まり、「人間関係」、「言葉」、「表現」の成長が見られた。また普段の自由工作やごっこ遊び、表現にも多様性や深まりが見られた。今後も探求学習と自己表現、他者との共同につながる活動として継続したい。



## 3. 食育としてミニトマトと枝豆の栽培を行い、観察スケッチ等の活動を行った。

### ① 実施実績

- ・園児（年長）が話し合っってミニトマトと枝豆の栽培を決めた。話し合いの際には、ミニトマトや枝豆の嫌いな園児もいたが、自分がミニトマトあるいは枝豆嫌いなことを主張した上で、互

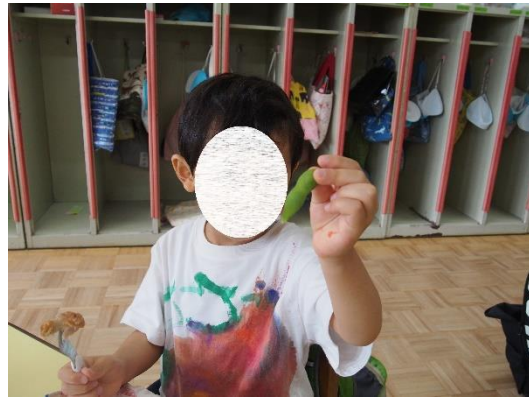
い意見を受け入れ合い納得して意見をまとめることができた。園児たち自ら花屋へ行って苗を受け取り、育て方や注意する点について教えてもらった。

- ・幼稚園の花壇の土を耕して、苗を植えた。
- ・毎日、当番の園児が水をやり、教師に教わりつつ脇芽を摘む等の世話をを行った。
- ・成長の様子を自由画長にスケッチした。枝の出方や葉の付き方、形をよく観察して描くように教師が指導した。
- ・熟した実を収穫し、お弁当に時間に食べたり、家に持ち帰って家族とも収穫を喜ぶ体験をした。
- ・多くの実がなったので、年少、年中にも分けることで、収穫の喜びを共有した。

## 実施評価

- ・子どもたち自身で話し合っ育てる野菜を決めることで、嫌いな野菜であっても積極的に関わって育てることができた。
- ・スケッチをすることで観察力が育ち、実の付き方や熟していく過程で子どもたちが多くの発見をした。
- ・発見したことを他の園児や教師に伝えるために、自ら調べたり尋ねたりして伝えるための工夫をするようになった。
- ・伝えたり、発見したことについて話し合うことでコミュニケーション能力を深めることができた。
- ・他者と収穫を分け合うことで、収穫の喜びをより深く経験し、今度は別の野菜を育てたいという意欲が育った。
- ・年少、年中の園児も収穫を分けてもらうことで、自分たちも野菜や花といった植物に関心を持ち、自分たちも育てたいと意欲を持つことができた。
- ・トマトは多くの収穫を得たが、枝豆は期待したほどの収穫を得られなかった。何が原因でうまく育たなかったのかについて考え、自分たちで仮説を立て、改善する手段を考えたり、調べるという自主的な学習の姿勢が見られた。
- ・次年度以降も継続していく。





4. 一般社団法人発達臨床支援協会から心理士を派遣してもらい、年間を通して教員と保育への助言をもらった。

#### ① 実施実績

- ・年間5回の心理士による訪問を実施した。
- ・訪問前に特に重点的に観察と助言をお願いしたい園児についてレポートを準備した。
- ・訪問時には一日各クラスを回って重点的な観察を要する園児だけでなく、都の園児と環境についても観察をしてもらった。
- ・保育後に、十分な時間を取って各クラス担任と心理士の面談の時間を持った。助言をいただき保育に活かすようにした。
- ・お子様の発達についての保護者の相談についても対応をしてもらった。

#### ② 実施評価

- ・発達障害の専門家に定期的に幼稚園を訪問し、継続的な観察をしてもらうことで質の高い助言をいただけるようになった。
- ・今年度は教職員の園内研修はテーマを別に設定したため行わなかったが、昨年度の研修を踏まえて、より多くの相談に応じてもらった。教職員の理解を深め、より質の高い保育と環境を整えることができた。
- ・今年度は昨年度より多くの保護者からの相談依頼に対応してもらった。保護者の子どもとの接し方への助言や、公的な子育て相談窓口への接続などにつなげることができた。
- ・次年度以降も継続していく。